

手つなぎ

【発行】豊富学区福祉委員会
岡崎市榎山町仲村64-1
Tel 82-2154
豊富学区福祉委員会事務局
畔柳 和正

令和5年度 豊富学区福祉委員会年次総会

4月20日(木)に令和5年度豊富学区福祉委員会総会をこもれび館にて開催しました。多くの豊富学区の総代さんの出席を賜わり有難うございました。少しでも福祉委員会が何をしているかご理解いただけたことと思います。今後もお世話になるかと思いますがよろしくお願いします。総会はコロナ感染防止のため窓を開け、密を防ぎ、マスク着用等の対応を行い、全ての議事を無事に可決して終了しました。今後の事業活動については慎重に検討し、進めて参りますので、地域福祉のために皆様のご協力をお願い申し上げます。

- ・令和5年度 予算：715,594円
- ・令和5年度事業計画：福祉講演会・いきいき交流会・高齢者サロン・子育てサロン・世代交流会・見守り活動・安全パトロールへの参加・広報紙発行、等々



豊富学区福祉委員会 新委員長あいさつ

畔柳 和正



この度、令和5年度の年次総会において、委員長を務めさせて頂くことになりました。よろしくお願いいたします。さて、豊富学区福祉委員会は、高齢の方や子供たちが安心・安全な生活が送れますよう、また福祉的な困りごとのある人への手助けや情報提供など、お隣さん同士の見守り活動から始っているボランティア団体です。主な活動としましては、各地区で行われている高齢者サロンの支援や、いきいき交流会の開催、保育園や小・中学校での世代交流会やイベントのお手伝い、年2回の広報紙発行など、地域福祉の推進に努めております。

これからも豊富学区の特色を活かした福祉のまちづくり活動に取り組んで参りますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

尚、活動にご賛同いただける方の参加もお待ちしております。

豊富小学校田植え

5月9日(火)豊富小学校5年生の田植え体験が、牧平借用田において開催され参加しました。参加者は、生徒42名と先生、保護者、福祉委員の皆さんで、三浦さんと平川さんの指導のもとミネアサヒの苗を手植えしました。手植え経験のある生徒が5、6人いて大変びっくりしましたが、みんな手足ドロドロになって上手に苗を植えていました。田んぼにカエルやカメなどを見つけては、怖がったり楽しんだりしていました。この稲は秋、9月10日頃に同じメンバーで稲刈り体験をする予定で、今から心待ちにしております。参加いただいた皆様や大変お忙しい中、事前に稲田や苗の準備をしていただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



指導



さあ、田植え始めるぞー



ミネアサヒ



もう少しだ、頑張ろう

いきいき交流会(春)

5月23日(火)牧平公民館において「いきいき交流会」を開催しました。対象者は70歳以上の一人暮らしの方です。今回は、25名の方に参加していただきました。あさひの会様による体操やゲームを楽しみ、皆さんと一緒に食事をしました。帰るときには皆さんより「楽しかったよ、食事は美味しかった。」と喜んでもらいました。また11月に第2回目を行う予定で、次回は何にしようかと今から考えています。

それまで体調には十分気を付けてお過ごしいただき、またの皆さんの参加をお待ちしております。





委員長挨拶



J A あさひの会様



体操



ゲーム



体操



ゲーム



美味しかったよ！！



このひとは？

豊富小学校 校長 加藤 環 様

令和5年4月3日、赴任初日。豊富小学校は、春の草木に彩られていました。4月6日、新1年生30名を迎え、203名の子供たちの笑顔とともに令和5年度の豊富小学校がスタートしました。学校が本格的に始まり、地域の方々や保護者の皆様に会う機会が増えましたが、どの方からも温かいお言葉をかけていただき、学区の温かさを感じない日はありませんでした。

地域に開かれた学校として、保護者・地域・学校が一体となり、子供たちの成長を支えてきたことが、豊富小学校の良さだと聞いております。本校の良さを生かし、子供たちの成長のために尽力してまいります。ご理解・ご協力を賜わりますよう、お願いいたします。



健康メモ

参考文献：中日新聞 本紙記者（コロナ感染者）

タイトル：コロナ後遺症に苦悩

「コロナ明け」の空気が広がっている中、さまざまな症状が長期間続く新型コロナウイルスの後遺症、感染してまだ完治していない人が多いようである。後遺症とは、どんな症状なのか？ある40才の男性の症例を見ると、感染したのは2021年5月、ワクチンが高齢者しか打てない頃で未接種だった。感染自体は軽症だったがその後、8ヵ月で体重が12kg減少、味覚・臭覚で色彩が消えた世界のようにあり「無味・無臭」の固形物をかんでいるようで、吐きそうになり食事は夜1回、日中はゼリー飲料でのぐ状態の日々が長く続いたようであった。疲労感、倦怠感、めまいが続き、時には歩くことすら困難の状態の日々もあったようだ。また、51才の女性の症例では、2022年4月に感染し、身体が徹夜明けのような疲労感と倦怠感が続き悩み続けていた。相談できるのはコロナ後遺症外来のドクターだけで孤独感を感じていると言っていた。その医者は「後遺症は体のバッテリーが劣化した状態で心身に負荷をかけると電池切れをし、コロナは脳や神経への影響が大きく、インフルエンザと全く違う怖さがある」と説明された。コロナ感染についての情報が少ない中、コロナウイルスの後遺症に悩んでいる方はあきらめず、かかりつけ医と相談しながら、いろんな治療を試し後遺症の緩和につなげて欲しいとコロナ感染者は訴えている。

編集後記

本年は計画どおりの行事が皆様の協力により順調に進行しています。このまま難なく進んで行くことを望んでおりますが、暑さが続く中熱中症には十分注意し生活して行きましょう。

